

平成29年度 学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校
重点目標	1 学力の向上と進路希望の実現 2 充実した学校生活の実現 3 開かれた学校づくりの推進

A	ほぼ達成（8割以上）
B	概ね達成（6割以上）
C	変化の兆し（4割以上）
D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	15名
	生徒	15名
	事務局（教職員）	6名

学校自己評価					学校関係者評価	
29年度目標					29年度評価（2月8日現在）	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・学力向上を目指し授業単位数の確保と部活動等との両立のため65分授業、週34単位授業を実施している。入学時より確かな学力を身につけさせる系統的な指導を行い、第一志望実現を目指している。教育課程の検討、生徒の自律心を育てる取組を実施している。引き続き、授業力向上の取り組み、授業時間の確保、生徒の学習習慣の確立、結果分析の共有・活用方法の構築が課題である。	○学習指導の充実と学習習慣の確立 ○主体的、自立的な進路選択力の育成	①授業力向上・進路指導の充実のため、外部研修への参加を継続して行い、成果を持続させるとともに情報の共有化をする。 ②アクティブラーニングの教材収集と授業実践するための課題を発見し授業力の向上をさせる。 ③新しいセンター試験に対応できる教育課程を検討する。 ④授業達成目標や学習方法を明示し、三年間活用できるシラバスを作成する。 ⑤65分34単位授業の効果を生かす時間割の作成・運用（年間授業時間数の均等化）を行う。 ⑥進路行事、LHRを通して将来を考えさせる中で体系的な進路指導を行う。学年や時期に応じた的確な進路情報を精選して提供することや体系的な進路学習や実力テストを実施する。 ⑦全学年で実施している定期考査、実力テスト、模試等において生徒が計画・準備、テスト後の解き直しが出来るように習慣づける。	①外部研修参加割合 ②アクティブラーニングの情報の収集ができたか。 ③新しいセンター試験に対応した教育課程が編成できたか。生徒授業アンケートによる授業満足度に成果がみられたか。 ④学習習慣（学習時間の増加、学習の質的向上など）やシラバスの改善が図れたか。 ⑤実質授業時間数の確保ができたか。 ⑥-1進路行事の内容充実が図られたか。 ⑥-2的確な結果分析を行い、活用が図れたか。 ⑦学習計画表、解き直しノート等の活用が定着できたか。	①外部研修会参加者数は引き続き高い水準だった。内部研修も実施した（2回）。 ②新しい授業法へ取り組みも積極的に行い、彩の国教育週間公開授業、未来を拓く「学び」推進事業公開授業を実施し、参加者数も増えた。 ③新センター試験に対応できる教育課程を検討し編成した。授業満足度は高く、前年以上の生徒アンケートの評価があった。 ④学習習慣の確立は十分ではないが、定期考査、実力テストを見据えた、計画・準備ができるようになりつつある。学ぶことの目的意識を高め、授業レベルを保障したシラバスの編纂をおこなった。 ⑤学期ごとのクラス別科目時間数の差を1時間以内に抑え、年間授業展開数の均等化を実現し、平常授業をできるだけ確保した ⑥-1進路行事、進路LHRは計画通り実施できた。多様な学力に対応できる、新たなキャリア教育に取り組んだ（1年）。 ⑥-2実力テストや模試の過年度比較を行い、三者面談時の志望校検討に活用した（2年・3年） ⑦実力テストに向け志望校を掲げ、目標、計画を具体的に立て、準備して受験するようになった。解き直し時間を試験直後に、できるだけ確保した。	A A A A
2	・全職員の共通理解のもと、統一的な生徒指導体制が確立されてきている。多くの生徒が基本的ルールを守り良好な生活状態で、学習、部活動、行事活動にそれぞれ意欲的に取り組んでいる。その一方で、生徒の自己管理意識の育成を図ること、さらに主体的・自主的に行動する能力の育成が課題といえる。	○基本的生活習慣の確立 ○生徒会活動・部活動の充実	①基本的生活習慣とルールやマナーの大切さを様々な場面で理解させ、校則の遵守の徹底指導を、登校指導や遅刻防止指導、下校指導、服装・頭髮指導、着崩し防止指導・自転車指導を組織的、計画的かつ継続的に行う。 ②全職員共通理解のもと、連携して統一的な生徒指導を推進する。生徒に対しては必要に応じて個別指導や学年集会等を行い、生活面等における指導にあたる。また全学年を対象にネットラブル防止教育を、1学年を対象に交通安全教育、薬物乱用防止教育を実施する。 ③生徒一人一人が生徒会活動全体において、意見を持ち、活発な学年を越えた交流を通じて行事等がより盛んになるように助言する。また、所北生としての自覚と責任をもって行動するように指導する。部活動がより活発な活動となるための支援を継続していく。	①指導計画が全て実施できたか。 ②指導の効果が表れ、課題の改善がみられたか。 ③生徒会活動全体の中で、主体的な意見の交換や活動が見られたか。部活動の加入率や学校行事への満足度が高い水準を維持できたか。地域への貢献が見られたか。	①職員の共通理解に基づく指導の継続により、多くの生徒が基本的生活習慣を身につけて生活できている。しかし精神的な問題を抱える生徒が増えつつある。 ②全職員協力のもとに計画的に指導が実施され、各種講演会では外部講師による講習、DVD視聴により、充実した指導ができた。また、必要に応じて他分掌、他機関との連携をはかり臨機応変な姿勢で指導することができた。 ③生徒と教員で意見交換をしながら、生徒会本部役員や実施委員会の生徒を中心とする行事の運営ができた。体育祭は強い風の中、途中、壁面を倒し、生徒の安全を確保しながら、予定通り実施することができ、文化祭では来場者数が昨年に続き、来校者が6000人を超える結果となった。また、生徒会関係（体育祭・文化祭・予餞会・対面式・走馬燈）を所北生として、誇れるものとしている。部活動についても90%以上の加入率が継続している。	A A A
3	・「所北を考える会」（学校評価懇話会）を中心に、年に2回、教職員・生徒・保護者・学校評議員で課題を共有し、話し合うなど開かれた学校づくりを進めている。今後は課題の分析や改善のための方策、進捗状況などについてもわかりやすく、地域・保護者にフィードバックすることがさらなる課題である。	○信頼に応える学校づくり ○情報の発信	①「所北を考える会」（学校評価懇話会）の運営方法と保護者会での学校評価アンケートの内容を工夫改善する。 ②課題に対する改善策等についてのフィードバックを工夫する。 ③開かれた学校づくりの一環として授業公開を行い、地域住民や保護者へ、回覧板、HP、携帯メール等で周知する。 ④HPや進路・学年通信、PTA広報誌等を通じて、部活動の活動状況を含め、情報発信を充実させ、あらゆる機会を通じて理科の最新情報も継続して発信する。 ⑤緊急連絡携帯メールを保護者会等通常の学校からの連絡や学校行事の際にも活用し、保護者への情報発信を積極的に行う。	①「所北を考える会」の運営を工夫できたか。 ②改善に向けた検討や報告ができたか。 ③授業公開の参加者が増加したか。 ④-1HPや通信等で定期的な更新や配信ができたか。 ④-2新着情報や理科の情報発信は、生徒募集の充実に効果があったか。 ⑤保護者への情報発信が浸透し、保護者会等学校行事への参加数が増加したか。	①「所北を考える会」（学校評価懇話会）の運営では、生徒がテーマを設定し、それに基づく小グループでの話し合いをする形式が定着してきた。学校評価に関するアンケートも総点検し、評価段階を4段階に改善した。 ②課題や改善策については、PTA理事会、生徒会通信、HP等様々な手段を通じてフィードバックを行えた。 ③授業公開日、県の事業や上級学校訪問等の活用により、30回以上の授業公開を実施し、授業参観者は増加した。 ④理科通信等を定期的に発行し、あらゆる機会を通じて中学校等に配布した。また、HPの日々更新を行うことで、1日平均1000名の閲覧を達成、上級学校訪問の増加にもつながった。 ⑤事前周知と伝達手段の工夫により、保護者の行事参加は、昨年比4%増となった。	A A

学校関係者評価

実施日（平成30年2月28日）

学校関係者からの意見・要望・評価等

・授業見学では、生徒の主体的な学びや意識の高さが感じられた。
・教師の発問や仕掛けに工夫があり、深い学びを通して思考力、判断力、表現力を大切に授業が展開されている。
・先生方の外部研修会への参加者数の増加は授業力向上につながり大変よい。理数科の生徒のために、実験のレベルアップのための合同実験などにも取り組んでみてはどうか。
・次年度への課題として、新学習指導要領に則したカリキュラムマネジメントの作成が挙げられる。
・進路実現に向けた様々な取組がなされ、着実に進路実績を高めている。今後は、学校全体によるキャリア教育、進路に関する動機づけへの指導の充実に期待する。

・登下校の様子、訪問した際の様子から、北高生はマナーやエチケットが身に付いており、清楚でさわやかな印象である。なお、カウンセリングの効果的な活用により心理的な面のフォローにさらに力を入れてほしい。
・3年前に比べ「あいさつ」が随分改善されてきた。登下校のマナーについても更に地域に信頼される学校となるよう指導の継続をお願いしたい。
・体育祭では生徒会を中心とする準備や運営が行われ、クラスや学年の絆が感じられた。
・学校評価懇話会において自立した生徒会であると感じた。自分たちの考えを的確に発言している姿に頼もしさを感じた。
・日々の部活動が盛んに行われている様子は素晴らしいと思う。
・部活動では、まちづくりセンター事業に協力していただきとても感謝している。

・保護者や地域が誇りに思う学校となってきた。
・文武両道を掲げ、実績、成果を上げていることは信頼に応える原点である。
・あらゆるところで所沢北高校は見られている。例えば、地域で行われる「安全・安心の会」などにPTA役員が参加することなどを検討してもよいのではないかと感じる。
・地域活動にも積極的に参加しており、今後の活動に期待したい。ボランティア活動を通じて地域行事に積極的に参加するといった情報提供も進めて欲しい。生徒主体で行うことで自立心も育つと感じる。
・情報発信は重要である。HPはとても見やすく発信力を大切にしていることがよくわかる。ますますよくなっている。今後もなお一層の充実を望む。